

不作の年こそ農業は注目される

春先から全国的に天候不良が続いたが、とくに8月末からの連続的な台風の襲来は各地に大きな農業災害をもたらした。被害を受けた皆様には心よりお見舞いを申し上げるとともに、その復興と経営再建に勇気をもつて取り組まれることをお祈りする。

北海道常呂町のO氏の場合、4号台風で常呂川の支流が増水し、過半の作物が流されたり水に漬かるなどの被害を受けた。しかも、4号台風の水が引く間もなく5号、6号、7号と、たて続けの台風の余波を受けた大雨でその被害はさらに広がった。海岸に面した低地のために水が引かないのである。そして、4号台風では難を逃れた作物もほとんどが収穫不能になってしまった。

麦は豊作のうちに収穫でき、野菜や切

り花など一部は出荷を済ませている作物もあった。しかし、順調に生育していた玉ネギその他の野菜類、馬鈴薯、ビート、小豆などの畑作物が、文字通り一年間の努力が水に流されてしまったのだ。それだけではない。馬鈴薯の後作に播く麦の播種適期はもう過ぎていくというのに、雨は続いており、馬鈴薯の畑は水に漬かったままの状態だという。水害が来年の麦作を危うくさせている。

同氏は本誌読者の子弟も研修を受けている、道内屈指の若手経営者である。4号台風が来る数日前まで、帯広の全国農機展（十勝博）で開いた本誌のイベントにもご協力をいただいていた。でも、どんな優れた経営者であろうとも、天災は回避できないのだ。自らの畑の片付けもそこそこに農協や町の対策会議で中心にな

り花など一部は出荷を済ませている作物もあった。しかし、順調に生育していた玉ネギその他の野菜類、馬鈴薯、ビート、小豆などの畑作物が、文字通り一年間の努力が水に流されてしまったのだ。それだけではない。馬鈴薯の後作に播く麦の播種適期はもう過ぎていくというのに、雨は続いており、馬鈴薯の畑は水に漬かったままの状態だという。水害が来年の麦作を危うくさせている。

同氏は本誌読者の子弟も研修を受けている、道内屈指の若手経営者である。4号台風が来る数日前まで、帯広の全国農機展（十勝博）で開いた本誌のイベントにもご協力をいただいていた。でも、どんな優れた経営者であろうとも、天災は回避できないのだ。自らの畑の片付けもそこそこに農協や町の対策会議で中心にな

り花など一部は出荷を済ませている作物もあった。しかし、順調に生育していた玉ネギその他の野菜類、馬鈴薯、ビート、小豆などの畑作物が、文字通り一年間の努力が水に流されてしまったのだ。それだけではない。馬鈴薯の後作に播く麦の播種適期はもう過ぎていくというのに、雨は続いており、馬鈴薯の畑は水に漬かったままの状態だという。水害が来年の麦作を危うくさせている。

同氏は本誌読者の子弟も研修を受けている、道内屈指の若手経営者である。4号台風が来る数日前まで、帯広の全国農機展（十勝博）で開いた本誌のイベントにもご協力をいただいていた。でも、どんな優れた経営者であろうとも、天災は回避できないのだ。自らの畑の片付けもそこそこに農協や町の対策会議で中心にな

り花など一部は出荷を済ませている作物もあった。しかし、順調に生育していた玉ネギその他の野菜類、馬鈴薯、ビート、小豆などの畑作物が、文字通り一年間の努力が水に流されてしまったのだ。それだけではない。馬鈴薯の後作に播く麦の播種適期はもう過ぎていくというのに、雨は続いており、馬鈴薯の畑は水に漬かったままの状態だという。水害が来年の麦作を危うくさせている。

同氏は本誌読者の子弟も研修を受けている、道内屈指の若手経営者である。4号台風が来る数日前まで、帯広の全国農機展（十勝博）で開いた本誌のイベントにもご協力をいただいていた。でも、どんな優れた経営者であろうとも、天災は回避できないのだ。自らの畑の片付けもそこそこに農協や町の対策会議で中心にな

常呂町の人々からはニガニガしく見えるだろうが、投資余力のある「機を見るに敏」な農業経営者であれば、それが当然の対応なのである。

しかし、反面で全国的な天候不良が続いた今年の農業界では、供給不足のどこさくさに紛れて、平年であれば見向きもされないような品質の農産物を、高値で売って「儲かった」などとほくそ笑む者もいる。そして、O157騒動の後、それほどに契約栽培に熱心であった農民や産地で、野菜の市場価格が高騰するやいなや契約栽培物が一気に消えてしまうという事態が、今年は度々起きている。それは不作だけではなく、理念なき流通業界のご都合主義が貧しい農民根性にしつぺ返しを受けていることでもあるのだ。

しかし、そんな農業界そして農民たちが思い出すべきなのは、5年前に経験した天候不良による「高値」ではなく、その後に国民や農業と取引する者たちが抱いた農業や農民への「不信感」なのである。

人々は不作の中でのバブルを喜び、ピエロたちを見つめている。人は、農家の利益を妬むことではなく、その契約違反や嘘を忘れないのだ。そして、彼は確実に信用という資産を失うのだ。

K君。不作の時こそが農業経営者として農業と自らを見つめ、鍛える好機なのだ。

江刺の稲

「江刺の稲」とは、用排水路に手刺しされ、そのまま育った稲。全く管理されていないこの稲が、手をかけて育てた畦の内側の稲より立派な成長を見せている。「江刺の稲」の存在は、我々に何を教えるのか。土と自然の不思議から農業と経営の可能性を考えたい。